



## ライセンス情報(SETINIT)適用の手引き

Windows版 SAS 8.2(TS2M0)編

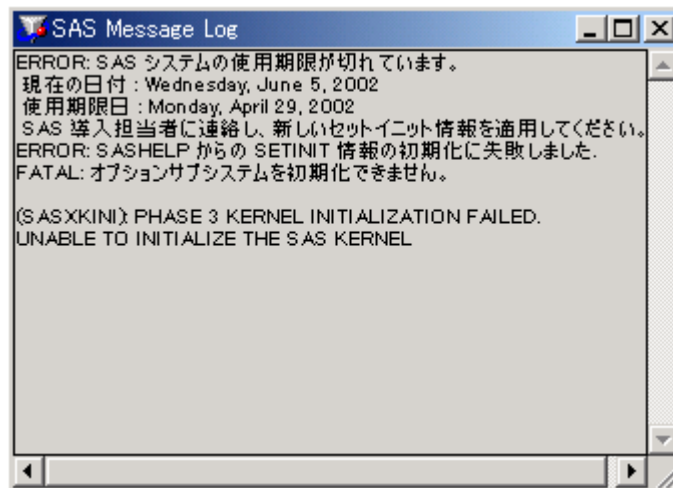
## 1 はじめに

SASを使用するには、使用開始時または、契約更新時に、SETINIT 情報と呼ばれるライセンス情報を更新する必要があります。

この情報には、SAS のリリース番号、ユーザ名、契約期間、パスワードなど各種ライセンス情報が含まれており、これらが正しく設定されていなければ、SAS を使用できないようになっています。

たとえば、SAS を起動したときに、次のようなウィンドウが表示された場合にはライセンス情報を更新する必要があります。

図 1-1: ERROR メッセージ



また、SAS 使用時に LOG ウィンドウに次のようなメッセージが表示された場合にもライセンス情報を更新する必要があります。

WARNING: SAS システムのライセンスは FEB 1,2000(30 日後)に切れます。  
導入担当者に連絡してください。この日付より SAS システムは動かなくなります。

これらの場合には、次ページ以降を参照のうえ、ライセンス情報の適用を行ってください。

ライセンス情報の適用は次の2つのステップからなります。

1. ライセンス情報ファイル(SETINIT.SSS)の編集

お客様独自のライセンス情報を記述したテキストファイルを作成します。

2. ライセンス情報の適用

ライセンス情報を適用するには次の3通りの方法があります。

次のいずれかの方法によりライセンス情報を適用してください。

- (1) SAS が起動できる場合には、SAS を起動して SETINIT.SSS ファイルを拡張エディタに読み込み、サブミットする。
- (2) マウスの右クリックメニューによりライセンス情報(SETINIT.SSS)を適用する。
- (3) コマンド入力してライセンス情報を適用する。

## 2 ライセンス情報ファイル(SETINIT.SSS)の編集・作成

### 2.1 SETINIT.SSS ファイルの編集

< SASROOT > ¥ CORE¥ SASINST ディレクトリに、以前作成した SETINIT.SSS ファイルまたはトライアル用の SETINIT.SSS ファイルが存在します。そのファイルを任意のエディタに読み込んで編集してください。

< SASROOT > とは、SAS がインストールされているフォルダを指します。

### 2.2 SETINIT.SSS ファイルの作成

SETINIT.SSS ファイルが存在しない場合は、エディタで新たに作成してください。SAS が起動できる状態であれば SAS の拡張エディタを使用できます。編集終了後、任意のフォルダに SETINIT.SSS という名前で保存するか、上書き保存してください。

### 2.3 SETINIT.SSS ファイル編集・作成の注意点

ライセンス情報はご契約いただいたサイトによって異なります。SETINIT.SSS ファイルの内容はお送りしたライセンス情報の通りにしてください。アルファベットは半角文字で入力し、制御コードが混在しないようにしてファイルに保存してください。

また、Windows のメモ帳を使用する場合には、Unicode で保存しないでください。

なお、引用符で囲まれた文字はスペースなどの数もチェックの対象になりますのでご注意ください。

### 3 ライセンス情報 (SETINIT.SSS) の適用方法

本節では「Windows 版 SAS 8.2」ライセンス情報の適用方法の手順を説明しています。SAS が起動できるときは 3.1 節、起動できないときは 3.2 節または 3.3 節の方法でライセンス情報を適用してください。

#### 3.1 SAS が起動できる場合のライセンス情報 (SETINIT.SSS) の適用方法

##### 3.1.1 ライセンス情報 (SETINIT.SSS) の読み込みによる適用方法について


こちらの適用方法は、現在使われている SAS のライセンス情報の有効期限が切れていない状態での適用方法になります。有効期限がすでに切れている場合は、3.2 節 右クリックによる適用方法、もしくは、3.3 節ファイル名を指定して実行する適用方法の手順に従い、適用してください。

有効期限が切れている場合には、後述の <右クリックによる適用方法> もしくは、<ファイル名を指定して実行による適用方法> で適用してください。

##### 3.1.2 ライセンス情報 (SETINIT.SSS) の期限を確認する方法

はじめに、SAS 上でライセンス情報の期限を確認してください。

現在、お使いの SAS 8.2 を起動します。

拡張エディタ上に下記のように入力し、メニューバーの実行 (R) からサブミット (S) をクリック、もしくは、ツールバーの下にある  アイコンを押して、実行してください。

```
PROC SETINIT ;  
RUN ;
```

## ライセンス情報の期限確認の LOG 出力例

```
291 PROC SETINIT;
292 RUN;

NOTE: PROCEDURE SETINIT 処理 :
      処理時間          0.03 秒
      CPU 時間          0.03 秒

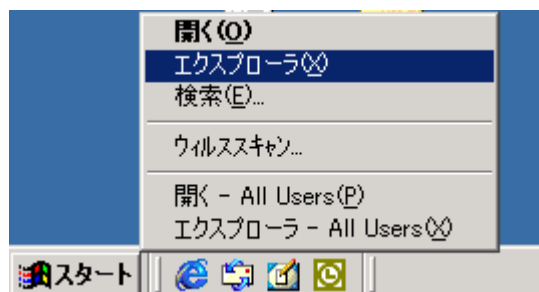
元のサイト確認データ
サイト名 : 'XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX'.
サイト番号 : NNNNNN.
期限日付 : 31OCT2004.
猶予期間 : 30 日間 (30NOV2004 に停止 ).
警告期間 : 30 日間 (30DEC2004 に停止 ).
システム生成日付 : 23NOV1992.
オペレーティングシステム : WIN .
プロダクト期限日付 :
---Base Product          31OCT2004
---SAS/STAT              31OCT2004
```

実行していただきますと、上記のように LOG ウィンドウにライセンス情報が表示されます。

### 3.1.3 ライセンス情報 (SETINIT.SSS) の存在場所について

スタートメニューで、右クリックし、エクスプローラ (X) をクリックしてください。

図 3-1-2: エクスプローラの起動



エクスプローラより、SETINIT.SSS を保存したフォルダを開きます。  
インストール時に任意のフォルダを指定しなかった場合は、通常  
< SASROOT > ¥CORE¥SASINST ディレクトリに、以前作成した SETINIT.SSS ファイルまたは、  
トライアル用の SETINIT.SSS ファイルが存在します。  
< SASROOT > とは、SAS がインストールされているフォルダを指します。

### 3.1.4 ライセンス情報 (SETINIT.SSS) の適用準備

現在、ご利用いただいている SAS 8.2 のメニューバーのファイル (F) から、開く (O) を選択し、  
SETINIT.SSS を保存したフォルダを指定し、SETINIT.SSS を読み込みます。

もしくは、ツールバーの  を押し、SETINIT.SSS を選択し、読み込むこともできます。

図 3-1-3: ファイルを開く

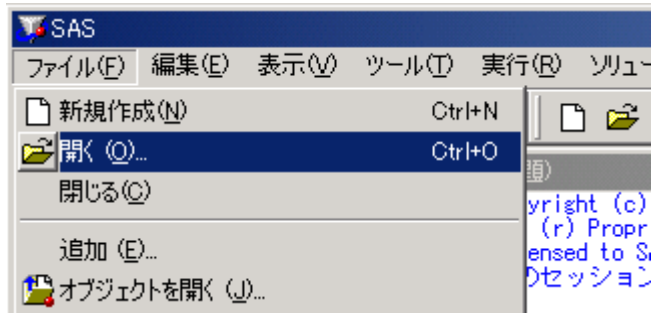
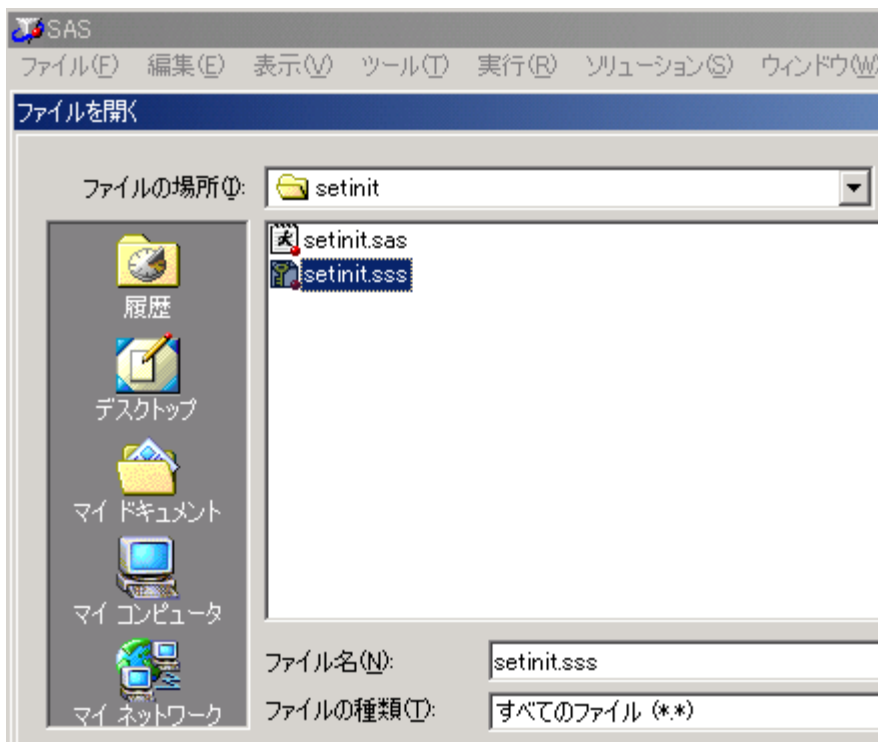



図 3-1-4: ファイルを開く



注意:ファイルの種類(T)の欄が、デフォルトでは、SAS ファイルとなっていますので、プルダウンから、ファイルの種類を**すべてのファイル(\*.\*)**に切り替えてください。

### 3.1.4 SETINIT.SSS の適用

SETINIT.SSS をダブルクリックすると、SAS 8.2 のエディタに読み込まれます。実行(R)からサブミット(S)をクリックして実行します。もしくはツールバーの  ボタンをクリックする方法でも実行できます。

### 3.1.5 LOG ウィンドウの確認

SETINIT.SSS を実行すると、ライセンス情報 (SETINIT.SSS) を適用した結果が、LOG ウィンドウに表示されます。

**ERROR で始まるメッセージがなく**、ファイルの最終行近くに次のメッセージがあれば、ライセンス情報の適用は完了です。

NOTE: サイト情報データを更新しました。

ライセンスの情報によっては、次のメッセージも出力される場合があります。

**出力されない場合でも問題はありません。**

NOTE: 2次セットユニット (SECONDARY SETINIT) データを更新しました。

ライセンス情報の適用に失敗している原因のほとんどは、SETINIT.SSS ファイル中のタイプミスです。今一度、お客様のライセンス情報を参照して SETINIT.SSS ファイルの内容をご確認ください。更新が失敗した場合の対処方法については、「4 ライセンス情報適用時に生じるメッセージ及び対処法」をご覧ください。



## 3.2 マウスの右クリックによるライセンス情報 (SETINIT.SSS) の適用方法

本節では、更新プログラムによる SETINIT の適用方法を説明します。既に 3.1 節、3.2 節の方法によりライセンス情報を適用した場合には、改めて本節の方法によりライセンス情報を適用する必要はありません。

### 3.2.1 ライセンス情報更新(プログラム)の起動

ライセンス情報 (SETINIT.SSS) ファイルを右クリックして、「SAS V8 のライセンス情報を更新する」を選択してクリックしてください。

図 3-2-1: ライセンス情報更新(プログラム)の起動



### 3.2.2 SETINIT.SSS.LOG の確認

「ライセンス情報を更新する」をクリックすると SETINIT.SSS.LOG が作成されます。メモ帳などのテキストエディタに SETINIT.SSS.LOG を読み込み、ERROR: から始まるメッセージがないか確認してください。その後、SETINIT.SSS.LOG をダブルクリックして SAS を起動すると適用結果が、LOG ウィンドウに表示されます。**ERROR で始まるメッセージがなく**、ファイルの最終行近くに次のメッセージがあれば、ライセンス情報の適用は完了です。

NOTE: サイト情報データを更新しました。

ライセンスの情報によっては、次のメッセージも出力される場合があります。

**出力されない場合でも問題はありません。**

NOTE: 2次セットイニット(SECONDARY SETINIT)データを更新しました。

ライセンス情報の適用に失敗している原因のほとんどは、SETINIT.SSS ファイル中のタイプミスです。今一度、お客様のライセンス情報を参照してSETINIT.SSSファイルの内容をご確認ください。更新が失敗した場合の対処方法については、「4 ライセンス情報適用時に生じるメッセージ及び対処法」をご覧ください。

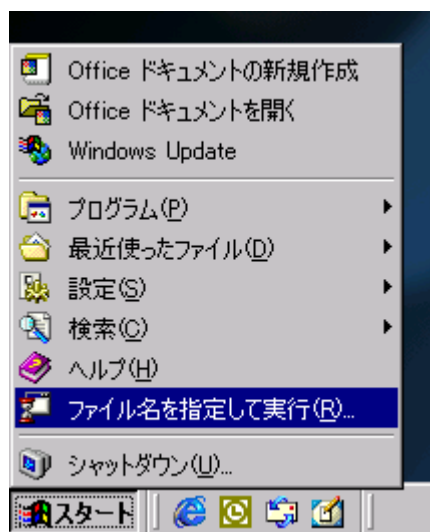
### 3.3 コマンド入力によるライセンス情報 (SETINIT.SSS) の適用

#### 3.3.1 コマンド入力によるライセンス情報の適用方法について

○Windows のタスクバーから、

を選択します。

図 3-3-1: 「ファイル名を指定して実行」の起動



次に、ファイル名を指定して実行の画面で、以下のコマンドを入力し  ボタンをクリックします。

```
< SASROOT > %NLS%JA%sas.exe < PATH > %setinit.sss -SETINIT -CONFIG ファイル名
```

ここで、

< SASROOT > は、SAS がインストールされているフォルダを指します。

英語版の SAS にライセンス情報の適用を行う場合、%NLS%JA は不要です。

(SASROOT にある SAS に対してライセンス情報を適用します。

< PATH > は、SETINIT.SSS ファイルが存在するフォルダを指します。

```
(例) SAS が"C:\Program Files\SAS Institute\SAS\%V8"にインストールされており、  
C:\SETINIT 内の SETINIT.SSS ファイルを日本語版 SAS に適用する場合  
"c:\program files\SAS Institute\SAS\%V8%nls%ja%sas.exe"  
"c:\setinit\setinit.sss" -setinit  
-CONFIG "c:\program files\sas institute\sas\%v8%nls%ja\SASV8.CFG"
```

(注意)フォルダ名にスペースがあるので <SASROOT> 及び <PATH> は複引用符(" ")で囲んでください。

図 3-3-2: コマンド入力



(注意:大文字、小文字の区別はありません。)

### 3.3.2 ライセンス情報適用の確認

ライセンス情報を適用した実行結果が実行した SAS.EXE と同じフォルダ(先ほどの例では「C:\Program Files\SAS Institute\SAS\V8\NLS\JA」)の SETINIT.SSS.LOG ファイルに出力されます。ERROR: で始まるメッセージがなく、ファイルの最終行付近に次のメッセージがあればライセンス情報の更新は完了です。

NOTE: サイト情報データを更新しました。

ライセンスの情報によっては、次のメッセージも出力される場合があります。

**出力されない場合でも問題はありません。**

NOTE: 2次セットユニット(SECONDARY SETINIT)データを更新しました。

または、SAS を立ち上げて、拡張エディタ上に以下のプログラムを入力してサブミットしても、ライセンス情報適用の確認ができます。

```
PROC SETINIT ;  
RUN ;
```

## ライセンス情報の適用確認 LOG 出力例

```
291 PROC SETINIT;
292 RUN;

NOTE: PROCEDURE SETINIT 処理 :
      処理時間          0.03 秒
      CPU 時間          0.03 秒

元のサイト確認データ
サイト名 : 'XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX'.
サイト番号 : NNNNNN.
期限日付 : 31OCT2004.
猶予期間 : 30 日間 (30NOV2004 に停止 ).
警告期間 : 30 日間 (30DEC2004 に停止 ).
システム生成日付 : 23NOV1992.
オペレーティングシステム : WIN .
プロダクト期限日付 :
---Base Product          31OCT2004
---SAS/STAT              31OCT2004
```

更新に失敗している原因のほとんどは SETINIT.SSS ファイル中のタイプミスです。  
今一度、お客様のライセンス情報を参照して SETINIT.SSS ファイルの内容をご確認ください。  
更新が失敗した場合の対処方法については、「4 ライセンス情報適用時に生じるメッセージ及び対処法」をご覧ください。

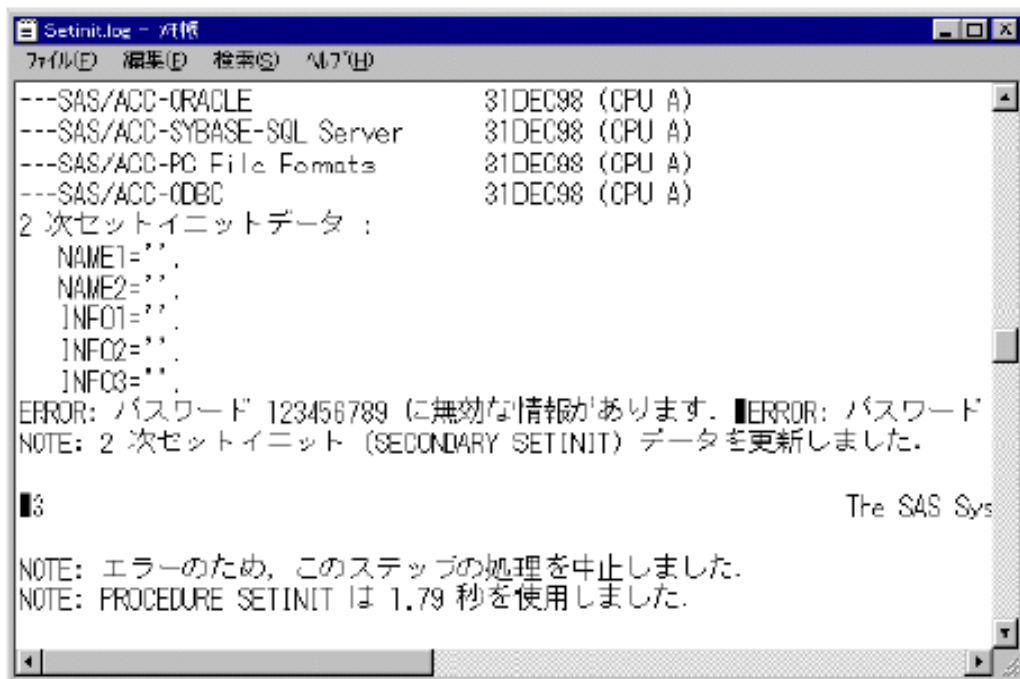
## 4 ライセンス情報適用時に生じるメッセージ及び対処法

SETINIT.SSS を実行した際のログウィンドウもしくは、SETINIT.SSS.LOG ファイルの中に、

**ERROR:パスワード 123456789 に無効な情報があります.**

と表示された場合、PASSWORD = という個所以外のタイプミスが原因である可能性があります。

図 4-1: SETINIT.LOG



ライセンス情報の適用に失敗している原因のほとんどは、SETINIT.SSS ファイル中のタイプミスです。今一度、お客様のライセンス情報を参照して SETINIT.SSS ファイルの内容をご確認ください。

### ○タイプミスの例

- (1) 「NAME =」の項目でカンマ(,), ピリオド(.), ハイフン(-), スペースが足りない
- (2) 引用符(')が抜けている
- (3) 文末のセミコロン(;)が抜けている
- (4) ライセンス情報に列挙されているプロダクトに過不足がある
- (5) 半角スペースと全角スペースの取り違い

なお、SETINIT.LOG ファイル中に「ERROR:パスワード xxxxxxxxx に無効な情報があります.」と表示されている場合であっても、PASSWORD = 以外の個所のタイプミスがエラーの原

因であることがあります。この場合には、SETINIT.SSS ファイルのいずれかの個所にタイプミスが存在しますので、再度、SETINIT.SSS ファイルの内容をご確認ください。

○タイプミスによるエラーの対処法

今一度、お手元のライセンス情報と照らし合わせてご確認ください。SETINIT.SSS ファイルを作成・編集する際には一字一句、送付されたライセンス情報通りに作成する必要があります。

エラー個所が不明な場合は SAS をインストールしたディレクトリに作られる SETINIT.LOG ファイル・編集した SETINIT.SSS を添えて FAX または電子メールにてテクニカルサポートにお問い合わせください。

テクニカルサポート連絡先

(FAX) : 03-3533-3781 (TEL) : 03-3533-3877

(電子メール) : [support@sas.com](mailto:support@sas.com)

メール本文には以下の情報を**必ず**追加願います。

NAME= お名前

SITE= SETINIT内に記載されているサイト番号

COMPANY= 会社名

PHONE=+81 (市外局番) 市内局番-番号 例: +81 (3) 1234-5678

PRODUCT=BASE

RELEASE=8.2

OS= OS名

## 5 ライセンス期限失効のメッセージ

ライセンス期限が失効している時には次のようなメッセージが表示されます。  
(表示されている日付は参考例です。)

### 5.1 失効後 30 日目まで(猶予期間)

エラーは表示されません。

### 5.2 失効後 31 日目 ~ 60 日目まで(警告期間)

起動時には、以下のようなメッセージが表示されます。

WARNING: SAS システムのライセンスは February 1, 2002 ( 30 日後)に切れます . 導入担当者に連絡して下さい .  
この日付より SAS システムは動かなくなります .

以後各ステップを処理するごとに、以下のメッセージが表示されます。

WARNING: BASE PRODUCT (FORMAT を含むプロダクト)の契約期間が 30 日以内に切れます . SAS 導入担当者に連絡して下さい .

### 5.3 有効期限失効から 61 日目以降

下記メッセージが表示され、起動できません。ライセンス情報を入手して、更新してください。

ERROR: SAS システムの使用期限日付を越えています . 現在日付は Monday, February 4, 2002 ですが、使用期限は Friday, February 1, 2002 です .  
SAS インスティテュートジャパンに連絡して下さい .  
FATAL: オプションのサブシステムを初期化できません .



ライセンス情報(SETINIT)適用の手引き Windows版 リリース8.2(TS2M0)編

---

2004年3月18日 第2版第1刷発行

発行元 SAS Institute Japan株式会社

〒104-0054 東京都中央区勝どき1-13-1 イヌイビル・カチドキ8F

電話 03(3533)3066

---

**本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。**

SASテクニカルサポート

**TEL : 03 (3533) 3877**

**FAX : 03 (3533) 3781**